

つ
き
は

215
2057
32



格はり一の事ハモトノ平家ハタケ大ヒトシ
とあきのうも清盛モモロとアキラアキラお家オカミて
ひあきと洋海ヨウホとアソコアソコけまう時ヒメ一門
きく度ヒムあよてのく處ヒツひきらヒキラハトキハトキ人ヒト統ヒトシ
よふきあくヒタチ大オカミねりネリあうひヒ闇ヒタチ
破ハシため里山ヨシマくまうクマウ空スカイと名ナメとすスル
すれと廢ハシすうりスウリとくトク代ハシのハシみと正ヒトシ
すり下ハシのあきアキーヒをもやうモヤウ我ガまハシ小ヒトシゆ
まよとりへと平ハシあ城シテのこう里ヨシマをじやうい

うとまくとあくよみの平のあをたま誇右
白虎せんもあもあやくこきしむあぐむお邊地
地とあめへかはす萬るまきわの興
りうづき物の延陽城白川や東山よ
三井ちあく乃若の三絲にき鬼門よもえい
山さんぎう大師北さくらうりあよねとこ
蟹まいと清あと名前和老のうけくもりうく
ちくさうやうそとしゆごと終ふあ山のえを
とくま内へもとやうすくわやまれがく
うれもなうきの川るきよたきとねや升川と

かげすゑとあくとあくよ仁和寺にむろ
くまうすう一佛はあちのうの京をなせん
すく車あくギーいほくくきの彼衆もく
ふうんぐのせと玉もとさうの京をなせん
くとくと九条よくともととも末代のうきよ
新家城へてく見ゆもとて と終きふれさう
はまとくくうよ地あうす そのと
やまんじ新んま小兵庫乃うく城よりてま
小島うみてうのとくろうちあをあくとて
あくと地形を文ふれうまきあよせん毛

城あくまうの新家と名前里大足と云うあん
せんは家さんをあらそううなもやううじり
あるふのとひきとんとんえねりへうあまは
り月見よどきをあの優城をうみうしんを
人々とこうねりをせれは一門の人々が候む
あうるをうはととめくくりやうごよくうり
まこと大足城とてあくまうのせゆ



時乃はあつとみ平大納言時おもむくもくや
さうらん。あまきねうらうらうのあもうい故
うあきせ。すのとまりとあすくもくをう
ふとひくかくの名所。あ
ききもすへきくもくもくもくもくもくもくもく
ようもくもくもくもくもくもくもくもくもく
のねとうけくさりよしくあらもくもくもく
アモニヒコ車とへど波あさり一の若も
わづりそとまとみのみにじへとうねれりそ
まとほく幸ときりひくに鶴りそとまとく吹
風ふくろそんもくとてゆりめくば東きく
きくをすとそもりちめのたぐさんふ
よどみえとじらひよたうみじによ浦
上と三町計うあきせそのしめのう人よ主家
がうそ、私ひとまりよきすなは 数ふもく
あくらうのちむるんとうめんすう事
じもとくもくかくよへるも 民ともじ
くむまうりと 説教と佛教もよどうあく
ききあくうをき エ象の大納言くふほよ

あうちおふせりうほ家まわりにて鷺門を
られりへ國はみのあうちありやうアアア
せばゆりせのひ跡をそむきヤア細てとすも
首をさるためのいせうゑのままとくい
どんじうへケ國とくらけト總比五
乃あうり小京坂とくまうりとくはり多
ともよろのちをうきあく年のまうひ
とあうままでみせうのいもひをさくあえだ
やどなく運命ほきとれ もハ未代まくを
りくたううをきほぐんさまとくを破めさ
きそくくわに奉のあぬをも ほくうひ
あきとやうきうり津海津海やなゆく事ありと
のゆひて津海津海がたうきあひのやとらうやも
のりよ二代のけういあがとやて天太れまう
きうせ城もうちもうせといそきめされきう
聲もうち声もうちもうあうあうひゆうん
もゆよもくめね屋すうりううめこに
うしんきよもくまうりとくの三さんとくら
うひふだうもじきよあ上と三町もくらう
うをくもじぬアアまとくとくら

とまわりふせきせんとを日ふれりひ立わくち
成就す人まうりくまうらゆいしんう人吉日
と月く。ノ成就のきせいはまやうれめこに
ゆらせくへ處するらとそなけきあだ義
てりとまきうへよもうちまくまくらばふ
うんまやくこゝもやうまうそくのうさんう
あややう一二たあうとひ廢うさんあら
とまうまうとまうりあくうんうるアリあや
ゆうまひあけきたうふ一川のうんうは
鴻とほうせて留連せよ一かみのノ成就
サ一車のとアモとうけううのアモん
右日ハ三月十八日吉日を以て山の一天と
うひまくめや。ノやうへまく一ゆくはゆ
けふふあうとせようけうぬりうとて本わ
山城伊勢りせむりぬ津の本母波セケ國比人
まととくひく山まうち山のりと、りんせさ
波くまうくとくとくとくの三日見へ
もととくをまくりぬあきうたりうまく内あが
よ升ふうあきうたもひわくじまくあ

もやくとておきへもつと引てひあうじまく
もろとゆりくがもろもろ大石敷あらはる
もろのさあにうみかねそりくたうりも
わを一ふ万人の人まがり四十日もそりへ
あきれどもまくとあうてのなまうらる
おれまよひうきやうんねいせんとの
内紀あり



五
もすうひき
ことよやうに
そとだてをまひもとをのやとうが
せりておをきくいあらちいわとうあひ
うちそくふは鷹成社（まゑじや）すいもんとへく
見せてあまはうじるまくじるにりをく
うなまくみちらりゐますりそくみはなま
そくは外見うすうとやうりく風うれす
ひ翁んまよりくせんとの活あうなり（さかひ）民
衆くまうなくふんとひくまえゆくわ
てやまくはげふせ不すひくひへたす
ゆくいうのまくせそわくのあくアサ
林とさん一の升とくすまやうやうちう
うきつおうをそきるようきらはせと
うけゆうくづひなりのりふ色うだく（カク）と
あくまで仮も單めで五百人のそ中に
せらもさうひ球お一小あむてとをうけ
終つり ば大和（おおわ）よぬとくは度あうてとを
ひとへよ歴すうげうがうと成さん事（こと）と
ほくらもくらおけまきをりふとア

小人ぐらとはうそうしてへ文ふげま
成就あつまうとうのなりてよ忍しては
ゆくあき、罷業あきうをひは黙業もあくは
一人うそと二人うそす三十人の人ぐらう
立るますりと下澤湯や右まてまくを移へる
活あくまうてうそのむりとちやうと角く
やあじ事技藝のうへんに何くともばらば
就成まるまえとさへもいきまき雲う
と角るふも一トしのゆくまくばらう
哉あやませぞせんえ熟マカとさまでもくら也それ

観音の二はとりらもうそとせりてばあく
いよあひ一曲の人もうちよからむじもふも
うまくまくのあくまんうくちくありふ
思ふとよどくまくさりううんけくらと
一交よどくまくさりまく涉アシとくめて思
かりなんどくくとれとの内徳ミタケでいくあ
こやのくわうりふりあとん城シテをくき
牛不てうりとすくあくとゑうしたれ
うもうすみてあくとやすそひきん

うるさくそまうのありさばおりひやる
もあきらめきわらきのたうゆく
アトギテテ老ふれぬやふいとぬあひ
さうりやまふすとれんとくせでゆ
すゑのとき内をま云の氣とよとほは拂り
きうさんせかりそめに事るまほきよ
わとくまうく風のそよとぬしんふも
もはやとせりんをアリとくも
まかひ山びすを月日残をうる山海く廻
とあくねよもくら称ア我身のまくひ本
もくはよ計ひよもきぬくとゆりひ角
もくあくきよもくとくのとやそよとく付く
四うとあるがみくぬ残まくよなまくもせさ
あくと一人二人乃至うる二十余人どう
ねまもいく田こやけくもんよじるんげれ
きのうぬやんぢゆきん波中よてどりく
ゆきうこちくすと風すすま親波とくあくま
えを一人りあくす波とくまくじくみ
あむきのをわり母波よりよ伴せりせを圓角
くくのりのたうゆくのあくりよみくく

てたゞひまわんのきのうそそりうち我す
破らうりとせめくあひ残るをくうへり
じうつあの野きふくひんうせてひとゑうの
うゑよま野。ごひのうのうきあくふみ
とくめううしきあり くもくやとくふ
をよみくつとのねりよよのあくひ兵庫れ
漁人をうちよとくえとられぬうとそ
まこいきう



うのう詠うものたう黒大裡ふありて
しやうすむきう
力もめ もへぢりきのあくのあ あきを
まんまうこのくもの あひひきりく併勢
おのもの まきけびへと發くアリテ
あくを様いめいとおれもむく罷人のあん
はやうまうをあらうがんあうももまのしやも
そ乃はく城うとにうれさまくそられ
ノヨウ時六万騎^けの地^ちまうそんくすけ
びくとくよりくとくゆくやく
生^{アト}むびトやうのうきよのうらきんせえめい
どふうがりとくそのたりくえぬまわゆ
ハ一門の人^{ヒト}一門^{ヒト}残^リしてあづひき
のくろをすうとく一門とくわくうさん
どもあまのこくとくせ残^リてあづひき
こく一門^{ヒト}もあくも筋^{スジ}小あくくに内座^{ナシ}う
るま^ル今ハ根のくりへりとくのくヤマキ
だりきれもあやうひや石まで何とくま一門
の人^{ヒト}まく津^シあう里^{アシ}ひうちねう大^{タケ}根^{タケ}
木^キたまんとのせんざくやあういもさ

やくの内に風うるをかくすとまゝ
あくのわきやせまうは佛をみれしやううん
まうにうきをせまふ うひめうたまうは
八万はふ人のきえむとあらも一あやう太みを
まうじゆりきつのりうちとどく 祚通^{アシヅミ}一
のまくまんへちくしやうげまうアコキ
路あむちやうのくふのやり送へる教^{ヤク}もだふ
をぶひもだらふはや城うれ路^{ヤマニ}あま走
めんまうあくのやうきりゆく色^{モハ}世に人間じ
いとくきやがんあくまのの里うくして
御統^{ヨウドウ}もう事^{モノ}あらもくらふすのまにあう
れぞせあう座^{スツ}ふぢきふす風のるゝとりひ
てさけたがなく人とりうとほくくまひ
くらへくく称^{スル}もああき^{スル}ま城^シ見せんう
くあぬ^{スル}き城^シはこうありゆこあららうふ
ゆきうししげ鷹^{タカ}もやくとゆくさんすう内
ういけううんせじきのへああうとくふまく
すとむひのまくし城^シもととまきんちう

かへて廻つても一さんの人くびり破
四うん→て廻く折ろし廻うまきあをらの
人ま、ひう事あゆト三十人のんぐうと
まくくくいとまそろへよとてものびくふ
まくすまけ二十九人をうちだりきう今一人
ともんもくふともるいあんあくまきはなれ
んをとくまつくるんろを説のくひもわら
をめくひくとばらん一人と廻くそ日球をく
るあらもま圓六の馬のうひやあくさふう
たまひあけきたり 実小法事とめくある
まあうしや一人兵存のう球と渾りまくわ
まわ人教えとみてあくとど渾うハモヤマヤ
がやのさるまきた人結うねるせりうと渾り
あよそそまひもひうきえ残人教よせんと
ひふけうる筆をもて廻く人教ふそ
り書きをとらねとうふもなあもあうじや
ひゆらひ球くうとあめうよだん人も隠れくふ
をふそりうえのあらまうす 刑部左衛門

みづき事とゆきごくゆめぬりんす
ありやまとそゑまひけまくふもくニテ
ニま女ニ十八とアハ月よゆうう娘とまう
くわと見トモハ月十五のくまう月比
くまうみきわくひめうみたて名前女
と名付てうん家かてうまとだりくま
うつみけきそん中ハくまうせよてえん
そんうちトモカキうんむの月よあひ
母ナカサムのくらのやまくま
ウマテおあめうりんふまくゆうそくく
りけのくらものうきくめにうきくふせい
えくやんひめハモクコロカニモく人どよ
ふをやくびりきくものうきくねりくり
ききとさせのくらのハキキくとほくのもま
ハますらをいつあうもやうもくわくあくす
て十三方くまうくまうもくわくあくす
の裏足ふを母ふをあうひめのとの脚うもく
ちくきのりうとすあくあくふまふひとく
乃相親あり丹波の國をうそのあくのせと

とまろちおむろの内服也きりのとまろれ
あらう所とは仁わちの處人のうらとう
トきれその人のみふ薬共拂りへつねとも
あり十九よりあくねあくとぎんれうちに
ちやう一ときけもんふすれぞり——肉内
のふまんじふ小所取あくによ内三十日より
まんじにそりりとほきくまのあまりふ
あ一矢のべようちりそくうけりりとそ
あくちきりくとねゆとくひあれぞく
せんはうれひをすきひとせれりうそあ
ゆうそ——なげきてあたのもくりふ里へ
と毛里ひづりふ立あくへあかりなんと
ねをひ。ともひものとくもくとくひをせ我
身へ一ひづきのあくひきつよ處すらひ
まくひあのもくとあくあきあくよ見つて
まくまだ夕日ゆうすくあき落へて 姫川
あくうう残とりもくらて
まくまくと風はれきまとこうじとそ

ぬうものづるをかくわうとそ

くきしよまのふりくわぬり志のふあわせ
けみやゆく
ゑの野ふゆもゑもえむきうめも
くそりいふくもはまきうめも
りやうふゑいじてあくつきわくね月を置く
じてあくまがりやばのべふ人あつアマサ
あくまーとくらすきみきしうみーやく
思ひにまげんりひくありひのりともあくま
くらとくらうげるくわき揚あたけ小あが
あえとよめのとまきそりてあります



りそがりつけこそうつてまひめうにた
くふあえのうけせんかせいをやもんあ
うめいくうろのあこづきものとがたりと
残ひくうねすまけの和合もまくさうあ
すゑしゆうのうちのあひまくえりりれ
作のひまひありそくやすのへとやまくじ
まびくふまむひとびなまうりせお徳まく
ふそくやうの夏残うとうてりへじくも
そろーーの後まうともうせのたうりよみひ
けくまへは他の人とりひすくじまきをち
所まらひくらうせまくまくはともとやるま
そはまとそもももくわのへじりをまく
るふうらのせやめのとももとひまくして
毋段のをもそくづりきりわうりり
や二人のんこきうくまくのよきまくく
てまざきひまなくだりためのよきまく
きまほきす名目へちらくのふきうとひく
くくくかりあけわくれめとせやまくふ三半
にうきやともやふもくまくぬれ終まく

をあらま我みさなう所ふせんすりぬりふ
なまひつともやもへ佛前よきせひて火一人
りうちうちひあかくもりひくよふううひすよ
ウニモー坂 ゆさくももんじゆひく
なげく風ひへりうそくりりりやもくは
せんにえとせとや林のあもおりひよまくそ
そそうきうち刑部ミツブのせうくふもくへひとくわ
きうね思ひうり小あ女のかづみ波とり内
めふむ乃も林よのりりほくがくのゆんそ
れいひきりあせぬうるたとあとまそ姫う
遊く深波く川宿とてき野のう称波下う
あく先三熊野うまりうあり三川れた山城
ウおくもくうのびくとゆきうこすうう
いやかひうりんせむしゆふよ後りて内
わきどそそゆきうこのわくさまと又ねよ
せんざんくもりまみむろよわらばくおれ方
内ゆう一ふあけねくまきゆくのりうとて火
序のうう波とゆりきううなまれ人殺ふゆう
あひくねくへてとくまそろうじやこ成とふ
もくもと圓もうの窓れまくももくきく

まくかのト角ハ三月十八日の内一
そんとまきりけきた人そらの馬らひ
よも角卯月をとて五月のうら卯月ス月を
ト紀月も年とて六月二十三日の一ノ丸
みそそぎまきりきくとまきめう志たうととを
たすううるまきりのうふわすとやしてうみ
よへられてこく内と脚くましもやくみひ
まくらそあまきうき まくわもくふもくれ
まくも野のまねすとほもともと



まああまうりの波うめうふりえきうつて
ひめうをく唐やまくとおりひづらあわす
不おもひたれく今うううきめ波うう事よ
かうとアうすまうんあうれをふあふはま
まうりきんうめーのううりやとてをやみ
つらうりと今えううめひきりかやう
ふねりひまひきうううの様しやほうじ
きんえううのりくううそやうひきん丹波れ
のをふゆます名月女のゆりへうきの
たよりそりひきううゆくふとるわくよ
くく人を津乃ゆ日くとくへうきうんさくに
角ものあうドうぐきよと下人の子う
うんとううーーうけとをとくうひーーえと
くふもくひひめのまくこ体だけよりく
うろとけくせーよ思ひ力かりふうひひめ
うせわうすとくとく人をくせ波あらきく
思ひううく車くとんせート 法圓波ふゆ
もうけくううんぶの波せううく名月女れ
ゆくまくとだ美ゆとゆりひまうりくわ
ううじくよとくとくそのう人のとく

まう珍重をして御まうようまことわまくふ
もうせんとひきひやうづのうのんぐら
ふくきゆふとあくまくそくめとく一
しわくととをきいドき
うき世そとせりひすくも一もく
人のえふまうまく事そまく
うやうふまいたくすまきりせりうる
月まきのううちく空産ありもう今れうこ
とまくとまくまふとやまんむねうらまく
人といつててもももやうじやまの月のく
そと向すまくしのまやうぢやむくくわと
すきおとよふめりうかふぬうそと珍ア
べくゆくわく称たはととと又ゆうせんもさ
津ひふんぶんのものとひめのともお月
をうんまきの者とゆゑあまくあうせをう
うくちやうじとりそめよけりそのひま
うもえりせりとくわもくねうもあう
じやなりまよしのまやうじやいせんのあう
まうよまき世そくやりひすくも一もく
人のうへふもうまき事そまくとくらすくみ

詔書 あさそ世に在り奉れましゆそちも
まやうや暴く人のうとえびからんれ
ゆらひきふどりてみどるまくまくせア
さんだくも津のふるふとりえの三月
小刑部たまつふもととや人のうひもく一人
ひひとくらはのとくとせうく
きりのあきふまうき風ふみふる
えあひをくらとくとくとく
きのありーとくとくとくとくとく
あくあくひとくとくとくとくとく
ちふ實ひつやうふうひあひのうせめくす
だきとくとくせせせめくさくおりひまくで
くとくとんせいしかねア法國故めくらに
うの二三日までがくかあき人のたぐりよ
ゆうまとひ事とくとくとくせせめくわぢ
ちき去幸ひ秋ひまくとくとくせせめくわぢ
くふくらへむのうねうとくとくせ
國とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
今づらよづら六月二十三日ア書
らうをまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

んのをく湯さへくあり難くとあきゆ
そをかくさくこゝゆきとほく称めゆとすけ
月ひまくしゆりゆめうくせりへえうくすけ
くくぢくとゆくとくりすかきひてり
みとたにひきせびへもなまきのきよとほ
せよまひきようまきのややうふうう事え
そのひめゆへの事えうまたなふもふけりて
うくみかうすなまくあくとてへともえう
まきのうちめももれりやくたとくねうふ
ふをすわいふ

